

# I C T 教育環境の整備について

～平成30年度モデル校での取組状況について～

## 1 モデル校の状況について

平成30年度、モデル校3校（府中第三小学校、矢崎小学校、府中第八中学校）において、全ての普通教室に大型提示装置と実物投影機、教師用タブレットパソコンと、各校40台の児童・生徒用タブレットパソコンを整備しました。また、それらの活用を促進する目的で、定期的に学校を巡回して教材作成、授業準備等の支援を行うICT巡回支援員を配置しました。

【図1】モデル校の全普通教室に導入したICT機器



【図2】 タブレットパソコンと大型提示装置

■ 手元で作業状況を確認して、個別の指導に



■ 大きく表示して、各自の作業状況の共有に



## 活用事例の紹介

I C T機器の活用事例を、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」に分類して紹介します。

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。</p>	
<p>▶A1: 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>▶B1: 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>▶B2: 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	
<p>▶B3: 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>▶B4: 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>▶B5: 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	
		<p>▶C1: 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>▶C2: 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
		<p>▶C3: 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>▶C4: 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

※文部科学省：「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（平成26年）から引用

## モデル校での取組状況

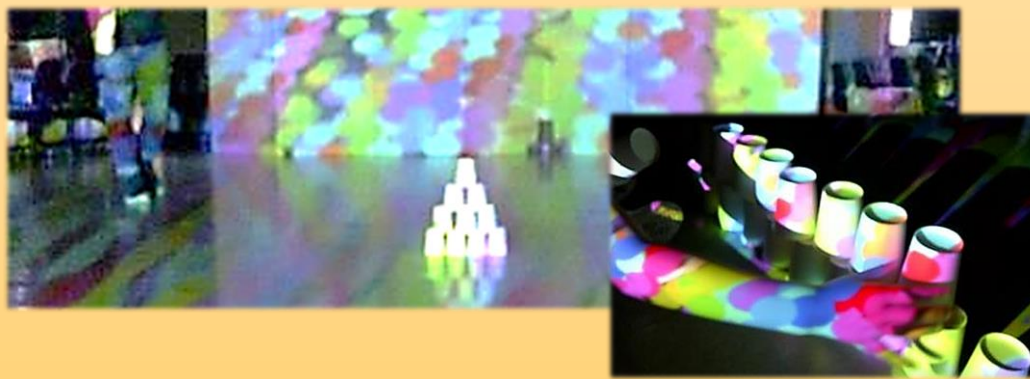
### 一斉学習

事前に作成した書写の見本動画を大型提示装置に写し、教員がその画面に書き込みをしながら分かりやすく説明するといった使い方をしています。



### 個別学習

児童一人一人がビジュアルプログラミング言語を使用して、デジタルアートを作成、その動画をプロジェクションマッピングの手法で、紙コップに投影して作品を作るという使い方をしています。



### 協働学習

グループで1台のタブレットパソコンを使用して、児童が日光林間学校についてのプレゼンテーション資料を作成、発表するといった使い方をしています。

